



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第54号(2009年8月28日)

「目先の値動きよりも長期の視野を持つ必要性」

2009年7月24日付の「日本株長期投資のすすめ」では、一般の投資家が投資信託の短期売買を繰り返してしまうことで、長期保有を続けていければ得られたであろうリターンの大部分をとりこぼしているという話をご紹介しました。

短期売買に至る最も大きな理由は、現在保有しているファンドに比べて短期的により目覚ましいパフォーマンスを挙げているファンドの方に食指が動いてしまうケースがほとんどであると思われます。このように、将来の得られると思われる大きな利益よりも目先の小さな利益をとってしまう人間の行動パターンを「現在志向バイアス」と呼びます。今買わないと価格が上がってしまって、二度とチャンスが来ないという気持ちが強くなってしまいういものです。

しかし残念ながら短期パフォーマンスと長期パフォーマンスの傾向は全く一致しないというデータが示されています。即ち、直近の成績がいいファンドに投資することは必ずしも良好な投資結果に結びつかないということです。下記は、米国において1998年1月1日から2007年12月31日までの10年間のリターンで最終的に最もパフォーマンスの良かったファンドが、期中にどのようなランキング推移したかを示したものです。

- ・10年間の長期パフォーマンスが良好なファンドのうち、98%のファンドは期中に最低1回は3年間を通した運用成績がランキング下位半分に低迷したことがある
- ・10年間の長期パフォーマンスが良好なファンドのうち、75%のファンドは期中に最低1回は3年間を通した運用成績がランキング下位4分の1に低迷したことがある
- ・10年間の長期パフォーマンスが良好なファンドのうち、45%のファンドは期中に最低1回は3年間を通した運用成績がランキング最下位から10%の範囲に低迷したことがある

(出所: Davis Advisors)

以上のことから言えるのは、ファンドを選ぶ際に重要なのは目先値上がり期待できそうなものを探すのではなく、投資哲学、方針・特色や実際の投資銘柄に自らが共感でき、将来にわたって資産の拡大が見込めるであろうと信頼できるものを探すことだと考えます。これらの基準に満足がいくのであれば、価格下落の激しい時期も安心して継続保有することができるのです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。